

# Σαδδοουκαῖος

サドゥウーカイオス

知っておきたいキリスト教のことば (81)

サドカイ派 さどかいは

サドカイ派という名前は、ダビデ・ソロモン時代の大祭司ツァドクに由来するとも、ヘブライ語ツァッディーク(正義)が元になっているとも言われますが、はっきりしていません。

彼らは第二神殿時代(紀元前 515～紀元 70 年)の後期に影響力をもちたユダヤ教の一派でした。当時ユダヤ教は、ファリサイ派、エッセネ派、そしてサドカイ派が三大勢力を形成していました。その中でもサドカイ派は人数こそ少なかったのですが、大祭司を出す家系としてユダヤ教の政治的・宗教的な支配階層を形成していました。

彼らはモーセ五書(創世記・出エジプト記・レビ記・民数記・申命記)にのみ、絶対的な権威を認めます。そのため、その中に書かれていない事項については否定します。たとえば復活や天使の存在、霊魂の不滅性や終わりの日における因果応報などはモーセ五書に根拠をもっておらず、彼らは受け入れませんでした。

一方ファリサイ派は預言書や口伝伝承も尊重しており、サドカイ派とたびたび衝突していきました。福音書に出てくる「復活についての問答」は、サドカイ派とファリサイ派との間に考え方の違いがあったことを教えてくれます。しかしイエス様が邪魔だという点においては、両者の利害関係は一致したようです。

強い影響力をもっていたサドカイ派ですが、新約聖書の中にはあまり出てきません。彼らサドカイ派は祭司階級・貴族階級としてエルサレム神殿にいたために、民衆の間にいたイエス様と接点がありませんでしたというのが一つの理由だとされます。

また 70 年のエルサレム神殿崩壊とともに、神殿祭司であったサドカイ派は消滅したというのも大きな理由の一つでしょう。エルサレム神殿崩壊後に書かれたとされる福音書の記者たちにとって、彼らサドカイ派はすでに過去の存在となっていたようです。

次回は「サマリア人」です。楽しみに。



「エルサレム神殿の崩壊」  
フランチェスコ・アイエツ  
(1791～1882 年)

復活はないと言っているサドカイ派の人々が、イエスのところへ来て尋ねた。

(マルコによる福音書 12 章 18 節)

